



## 「保険でより良い歯科医療を」 愛知連絡会ニュース

「保険でより良い歯科医療を」  
愛知連絡会  
〒466-8655  
名古屋市昭和区妙見町19-2  
愛知保険医会館内  
TEL ; (052) 832-1349  
FAX ; (052) 834-3584

# 愛知連絡会で「歯のなんでも電話相談」と街頭宣伝



連絡会では、毎年10月8日のイレバデーから、11月8日のイハデーまでの約一カ月間、「歯やお口の健康」について市民にアピールして行く取り組みを行っています。

10月8日(土)のイレバデーには、「歯のなんでも電話相談」を開催し、全国の市民から28件の相談を受けました。

また、11月3日(木・祝)には、栄バスターミナル北側で街頭宣伝を行い、歯科医療の現状を訴え、約400枚のチラシを配布しました。

## 「歯のなんでも相談」に28件の電話



件の相談が寄せられました。

主な相談内容は、「3歳の子どもの奥歯が生えてこない」「歯周病とはどのような病気か」という基本的な質問から、「入れ歯をつくったが違和感がある」「神経を抜いたのに痛みが続いているような気がする」など治療内容に関わること、金属アレルギー、インプラントなどさまざまな相談がありました。参加の歯科医師はそれらの質問の一つひとつ丁寧に答えました。

「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会は、10月8日(土)の14時～17時の間、「歯のなんでも電話相談」を開催しました。

電話相談は、毎年、イレバデーの取り組みとして行われています。当日は愛知県内はもとより、北海道から奈良県まで、全国から28



## 街頭宣伝で歯科医療の現状訴える

11月3日(木・祝)には、栄バスターミナル北側で街頭宣伝を行い、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、患者がそれぞれの立場から、市民に歯科医療の現状などを訴えました。

訴えでは、非正規雇用や生活保護世帯が増える中、経済的な理由で受診を控えたり、治療中断によって症状が悪化することなどから、窓口負担の割合の引き下げを求めました。

また、自然な歯の色に近い被せものや、口腔内の異和感が少ない金属床の入れ歯など、安心して満足できる歯科治療を保険で受けられるよう、保険の適用範囲を広げる必要性を訴えました。

これら二つの要望は、国が歯科医療にかかる予算を増やさないと実現できません。歯科医療技術や材料も大きく進歩しているのに日本の歯科医療の総額は、こ

の20年間ほとんど変化がありません。国が歯科医療にお金をかけないため、歯科医院の経営も苦しくなり、患者さんの口腔を守る歯科衛生士を雇うことができず、被せものや入れ歯をつくる歯科技工士も、長時間労働や低賃金という労働環境におかれています。このままでは歯科技工士が減って、歯科医療そのものが成り立たなくなります。国の歯科医療にかかる予算を増額してほしいとかわるがわるマイクで訴えました。

当日は、歯科医師により歯科健康相談や口臭チェック、咀嚼力テストなども行いながら、チラシの配布などを行いました。



# 第10回定期総会 活動方針など決める



「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会は、5月29日(日)10時から、第10回定期総会を開催しました。総会では、40,785筆を集約した国会請願署名の取り組みなどの2015年度

の活動報告と県内自治体に意見書採択を求める運動、歯科検診事業の充実を求める運動など、2016年度活動方針が提起され承認されました。

記念講演は、「健口づくりは0歳から～正しい咬み方は一生の宝」をテーマに佐賀県武雄市で開業の増田純一氏からお話いただきました。講演の要旨をご紹介します。

## 記念講演：「健康づくりは0歳から～正しい咬み方は一生の宝」

講師：増田 純一氏

佐賀県武雄市・ますだ小児矯正歯科医院院長



咬むことは生きる力そのものです。育児の本には、栄養や離乳の話ばかり書かれています。口腔機能の発達に関するものは非常に少ないのです。咬む機能の発達は子どもの時期に確立されます。幼児期の食事と咀嚼、嚥下機能の獲得は、大人になってもその機能を維持するために大変重要です。

咬む、食べるという行為は3歳から4歳までに習得されます。そのことから、以

下のように時期を分けてみました。

- ・無歯期 0～7か月
- ・前歯期 1～1歳半  
(前歯萌出、臼歯まだ)
- ・奥歯期 1歳半～
- ・完成期 3歳前後  
(乳歯が生えそろう)

無歯期では、食べ物を上嘴唇でとらえることを学習します。お母さんは、スプーンで食べ物をすくい、子どもの上嘴唇に当てます。子どもが上嘴唇でうまく食べ

## 2016年度活動方針

- ①県内各自治体で「保険でより良い歯科医療を求める意見書」採択運動に取り組む。
- ②市民向けの取り組みとして、市民公開講座や出前学習会を開催する。連絡会参加団体と協力して、年齢や対象、テーマなどを広げて取り組む。
- ③イレバデー(10/8)からイイバデー(11/8)までのアピール月間に、「歯の何でも電話相談」を行うとともに、歯の健康や歯科医療改善の必要性を訴える取り組みを行う。
- ④糖尿病予備群への歯科検診事業の実施など、患者・住民の要望を汲み上げて、実現のために県内自治体、関係各所に働きかける。
- ⑤歯科技工士や歯科衛生士との協力関係がつけられるような取り組みを行う。
- ⑥ニュースを定期的に発行する。
- ⑦事務局会議・世話人会の定期開催と組織の強化をめざす。
- ⑧「保険で良い歯科医療を」全国連絡会に参加し、全国の運動と協力・共同した活動に取り組む。

物をとらえることができるように誘導することが大切です。口唇は敏感な感覚器ですので、食べ物の感覚を脳に伝えます。また、上嘴唇を鍛えることで口唇を閉じることを覚えさせることができます。

前歯期には、ことばを覚えたり、お父さんやお母さんを認識するなど、脳への刺激が重要な時期です。この時期には食べ物を口蓋で押しつぶし、舌を押し上げる力を鍛えることが大切になります。この舌の動きを獲得することは一生継続する重要な食べ方となります。また、手づかみで食べさせることも大切で、汚したり落としても自分の手で一口の量の食べ物を口に運ぶことを覚えさせるのです。

私は地元小学校の学校医をしていて、保健室で全生徒の口蓋のかたちを口腔内写真で記録しています。その結果、乳歯裂の口蓋のかたちを以下のように分類してみました。

- ・丸形—正常な歯並びに

なる確率が高い。

- ・三角型—80%が不正咬合になる。
- ・V型—ほぼ全員が不正咬合になる。

この分類によって、口蓋のかたちで不正咬合が予測できるようになりました。永久歯列になってからでは大きさは変化しません。三角型とV型は不正咬合が多いため、歯科矯正治療の必要性を早期から予測することができます。

子どもの口腔機能を向上させる訓練として、舌の挙上をしっかりさせましょう。子どもを観察する時は、う蝕、口蓋、口唇、舌、顔の対称性、呼吸、姿勢、発音などに注目しましょう。

咬むことは生きる力そのものです。口は命の入り口、歯は命の柱です。

